

## 論文注意点

### (1) 本文

全体から部分を説明する。階層化して述べる。

同じ言葉を繰り返さない。

原則、しかし、そこでの 3 段階で説明していく。原則は従来法など、しかしは従来法の問題点など、そこでは提案法など。こうすることで文章の筋道が見える。

理由付けを行う。

マイナス記号は例外的に MS 明朝で書く。

「もつ」という言葉は、ひらがなでかく（例：このような特性をもつ）。持つにすると人が行う事象になる。

「わかる」も同様（例：解析図から見てもわかるように）

「できる」もひらがな。出来るは当て字なので使わない。

英文の終わりはピリオドではなく、フルストップにする。ピリオドを打って、半角スペースを 2 マスあける。（例：I am student. ）

### (2) 図・表

物理量はイタリックにする。

単位はふつう、括弧はいらない。

図のタイトルは 8pt にする。タイトルだけで何かがわかるように決める。タイトルが 2 行にわたる時は、中央揃えにしない。

図の位置は文章と同じページにあれば良い。

MS ゴシックは太字にしなくても、印刷したら太くなる。

VISIO はメタファイルで保存して張り付ける。そのままだとファイル容量が大きくなる。

オリジンの図は 100% で貼り付ける。オリジン上で図を調整してから、TIFF で保存。解像度は 600 にする。

オリジンで編集する際は、フォーマット→作図の詳細のページとレイヤで調整する。

作図の詳細（ページ）→サイズ（幅 70mm，高さ 33mm）。

作図の詳細（レイヤ）→レイヤの大きさ・描画スピードタブのレイヤの領域（左 3mm，幅 60mm，上 3mm，高さ 22mm），レイヤ表示タブの固定倍率を 1 にする。

図をワードに 100% で貼り付けたら、トリミング（図の不要な空白を消すこと）を行う。

### (3) PDF 化

ワードのファイル→印刷→プリンタ名を PDF にする。プロパティ→PDF 設定をプレス品質、用紙/品質の色を白黒。これで OK。